エジプト日本学校（EJS）における学級会の特徴（3）
―事後インタビューからみる教師と児童の認識の違い―

〇石井雄大[1]　山田真紀[2]　清水克博[3]　林尚示[4]　安部恭子[5]
（坂戸市立坂戸小学校）[1]（椙山女学園大学）[2]（名古屋学芸大学）[3]（東京学芸大学）[4]（帝京大学）[5]

問題と目的

本研究は,「非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に関する研究～日本型教育先進地エジプトにおけるTokkatsuの効果検証～」の一環として行ったものである。

エジプトの小学校で導入・実施されている特別活動（Tokkatsu）の現地化の実態を調査し,個人と社会のウェルビーイングを支える要素ともいわれる非認知能力に与える影響を明らかにする。

本発表では,インタビューの発言内容から,エジプトの教師と子供たちが学級会の実践を通じて得たことを分析する。認識の違いや共通点を探ることで,非認知能力との関連を考察する。

調査方法及び内容

調査対象：

　〇学級会の実践を行ったエジプトの教師2名
（教員歴:5年目と14年目）
　〇学級会の実践を受けた子供たち6名
（10歳:2名,11歳:1名,12歳:1名,14歳:2名）

分析方法：

　学級会後にインタビューを実施し,発言内容をカテゴリー分析の対象とした。カテゴリーの分類，設定の際には，M-GTA(木下2007)の手法を参考にしながら，１概念化(文の意味のまとまりで分類)，２カテゴリーの統合(概念を整理)，３確認，4修正，５再確認，という手順で行った。

調査方法及び内容

１．インタビューガイド（教員用）

①調査対象者の基本情報について

・生年

・職歴
（勤務年数、役職、担当教科、現在の勤務校への着任年度）

・学級会の指導の経験について

調査方法及び内容

②学級会について

・率直に言って話合い活動は好きですか？

・どんなところが好きですか／よいと思いますか？

・どんなところが難しい（指導が難しい）と思いますか？

調査方法及び内容

・話合いを通して、子どもたちにどのような力がついてきたと思いますか？

＊実生活で応用できるような分析力、問題解決力、意思決定力はどの程度身についてきたと思いますか？

＊コミュニケーション能力、交渉力、関係構築力や、より周りの他者に対する配慮ができるような力はどの程度身についてきたと思いますか？

＊責任感や自律心はどの程度身についてきたと思いますか？

・話合いを通して、クラスがどのように変わりましたか？

＊同じ学級に所属するクラスメートに対して、共に助け合い学び合うメンバーとしての配慮は、学期はじめに比べてどのように変わりましたか？

＊共に助け合いながら、意見や経験を共有して一緒に学んでいく関係は、学期はじめに比べてどのように変わりましたか？

・他の教科における指導に変化がありましたか。

*学期はじめに比べて教科の学習に集中して、クラスが取り組むことが出来るようになったと感じているところはどんなところですか?

*学期に比べて児童との良好なコミュニケーションと関係性が深まったと感じているようになったところはどんなところですか

調査方法及び内容

２．インタビューガイド（児童用）

調査対象者の基本情報について

・生年・性別

学級会について

・話合い活動は好きですか？

・どんなところが好きですか？どんなところが好きではありませんか？

・クラスでどんなテーマで話合いをしてみたいですか？

調査方法及び内容

・どんなところが自分のためになっていると思いますか？

＊１　あなたは学級会でクラスのメンバーの気持ちも考えるようになりましたか？

＊２　あなたはみんなで話し合って決めたことについて、一生懸命取り組むことができるようになりましたか？

・どんなところがクラスのためになっていると思いますか？

＊３　学級会を行ってきたことで、クラスのみんなはお互いの気持ちを気遣うようになってきたと思いますか？

＊４　学級会を行ってきたことで、クラスのみんなはクラスに対して役立とうと思うような気持ちを持つようになってきたと思いますか？

＊５　学級会を行ってきたことで、クラスのみんなは、お互いに助け合いながら、一緒に活動することができるようになってきたと思いますか？

調査方法及び内容

【計画委員会（議長等）を担当した児童に対する追加質問】

・司会等をやってみてどんな気持ちでしたか？

・クラスの役に立っていると感じましたか？

・また司会等をやってみたいですか？

結果及び考察　【子供たちの発言内容】

カテゴリー	サブカテゴリー	定義
自己	役割意識	幸せ、緊張、私は素晴らしいことができている。素晴らしい役割をできている。
	活動意欲	やっぱりクラスや学校がすべて、好きなので一生懸命に取り掛かる。
	取り組み	例えばコミュニティーガーデンというもの 水をもったいないにしないために瓶の下に穴を開けて水を少しずつ使えるように。
	提案	学級会では自分のクラスを飾る、飾りましょうというテーマを提案したいです。
他者	学び	Tokkatsuの時、やっぱりみんな自分の意見を自由に言ったり聞いたりすることができる。なんて素晴らしいなと思っています。
	教師の在り方	ちょっと介入してほしいです。司会者はわかったこと、話すときとか不明なことを言うとき介入してほしい。
	共感性	例えばね自分が持ってるものが他人が持たない、持てない場合は彼は悲しいことと自分で感じてて、あげたいって気持ち。
	所属感	素晴らしいクラスを証明するため。
	協力	あの、みんな協力し合ってるので、うれしく感じています。
その他		２０１２年　その通り　など

結果及び考察　【教師の発言内容（成果）】

カテゴリー	サブカテゴリー	定義
子供	分析力	80か85%くらい子ども達が分析力が身につけていると思います。
	問題解決力	問題解決力は65から75までくらいです。しっかり意思決定はできます。
	コミュニケーション力	もう一つはコミュニケーション。時間がたつと、最初は50%くらいだったけど、85%くらい目的を達成できるようになった。
	自己発見	自分を発見するために特活はいい仕事をしている。
	ライフスキル	特活でもライフスキルとかを身につけられる。
	他者との関係性	友だち同士で学び合いと助け合いの心も育ってきました。
	学力向上	けどどんどん時間をたつとともに、学力が上がりました。
	役割意識	ある授業が苦手でも特活では前に出て意見を言える。リーダーシップをとることもできる。
	教科横断的な学び	新しいカリキュラムは窓がある。窓というのは一つのテーマが様々な教科で使われていること。
教師	教え方の変化	特活に限らず、アラビア語を教えるときでも、話し合いを通して教えています。
その他		教師として2011年から13年くらい。今年で5年目。

結果及び考察　【教師の発言内容（課題）】

カテゴリー	サブカテゴリー	定義
子供	教え方	あのコミュニケーション能力、交渉力、関係構築などの 今年は子どもに教えるのは初めてだった。
	学級会の進め方	まずはグループごと分けたときは、グループごとの目的を達成するまで時間もかなりかかったし、達成できないときもありました。
	子供たちの見取り方	前から教えた子どもが９人しかいないので今の段階では判断できない。
連携	保護者	そして、保護者に伝えるのも難しかったし、すぐに理解はしてもらえなかった。
	特活専門教師	特活専門教師はさっきも言ったように、本物の日本の特活を見てきたけれど、私の方が現場での経験は多いから、私の方が子どもとのやりとりはできる。
その他		日本人の協力という大きいプロジェクトがあって私はちょっと関心が深い、もう一つは私自身この経験をしてみたかった。

結果及び考察　【教師と子供たち（両者の発言に見られるもの）】

①役割意識の向上

・リーダーシップの発揮や,責任感,学級会での役割など,集団で与えられた役割を前向きに実行しようとする意識が育まれていると思われる。

②集団で協力することのよさ

・協力して活動することの良さを感じていることがうかがえる。また,協力して活動することを通じて,教師も子供たちも主体性を発揮できるようになったことを実感している。

・自分たちで生活をよりよいものにしようとする意識の向上が見られ,集団の問題解決能力の向上に繋がっていると考えられる。

・協力するよさをとても感じており,他者への意見を聴きながら活動することで,共感力を育んでいることがうかがえる。

③人生につながる力（ライフスキル）の向上

・人生に役立つ力（非認知能力）を得ていることを実感している。

結果及び考察　【教師と子供たち（感じ方に違いがある点）】

①学力について

〇教師

　学力の向上を実感している。特に,教科横断的な学びに繋がっていることも実感している。学級会を通じて学んだことを,他の教科でも生かそうとしていることがうかがえる。

　間接的に学級会の取り組みが学力向上に影響していると考えている。分析力や,問題解決力など,非認知能力の向上を実感している。

〇子供たち

　教科の学力向上については実感していない。教師の視点よりは少ないが,他者との協調性やリーダーシップ,コミュニケーション力など,非認知能力を得ていることが発言から随所にうかがえる。

②教師の指導について

〇教師

　学級会の進め方に戸惑いを見せている。どの程度介入した方が良いのか悩んでいる。経験不足やイメージ不足が原因だと思われる。また,子供たちがどのような非認知能力を得たのかを分かっていない部分もある。保護者や特活専門教師などの連携に悩んでいる様子もうかがえる。

〇子供たち

「介入はいらない」とする意見と,「必要」とする意見と分かれている。議論が逸れたり,騒がしくなった時など部分的な介入を望んでいると考えられる。しかし,基本的な教師の在り方として,介入せずに見守ってほしいことを望んでいることが考えられる。

参考文献

木下康仁(2007)『ライブ講義M-GTA-実践的質的研究法修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて』弘文堂

国立教育政策研究所(2015)「社会情緒的能力に関する研究」https://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/div09-shido_02.html（最終アクセス 2024/07/28）